

東日本大震災復興支援

生活支援相談員ニュースレター～VOL. 7～

平成28年3月発行

【発行】

岩手県社会福祉協議会 地域福祉企画部 コミュニティ振興グループ

岩手県盛岡市三本柳8-1-3 ふれあいランド岩手内 TEL:019-601-7032 FAX:019-637-7592

～宮古市社協の取組～

宮古市社協では、生活支援相談員と地域コーディネーターが連携し被災者支援、地域支援に取り組んでいます。これまでの活動の変遷を紹介します。

活動の変遷

【平成23年～24年（避難所から仮設住宅、みなし仮設住宅へ）】

- 災害ボランティアセンターから生活復興支援センターに移行。（平成23年9月）
生活支援相談員、生活支援員配置。平成24年11月、地域コーディネーター配置。
- 震災当初、毎月生活復興支援センター連絡会議の開催。
（内容：合同会議、ボランティア支援団体、相談支援団体）
⇒ **目的** 関係機関、支援団体の連携、情報共有。（平成27年現在、50団体が出席。）
- 仮設住宅自治会情報交換会の開催。
⇒ **目的** 17箇所では仮設住宅の自治会が設立し（平成24年4月時点）、他地区の情報の共有と他仮設とのつながりづくりのため開催。
⇒ **効果** 「他地区が行っていた取組を、自分たちの地区でも行ってみよう」という動き、集会所等の活用、情報収集、つながりの醸成。

【平成25年～26年（仮設住宅から災害公営住宅、住宅再建へ）】

- 絆・つながりの構築。（「仮設の皆は家族のような存在」との声。）
- 移転に伴う不安、自治会機能の低下。（再建後も仮設住宅の見守りに足を運ぶ自治会長の存在。）
- 地域の自治会と仮設住宅の交流開始。
- 災害公営住宅建設地区の民生委員や自治会長、その他関係機関（市・在宅介護支援センターなど）との同行訪問を開始。
⇒ **目的** 主に災害公営住宅入居者の把握、キーパーソンの発見。

【平成27年（災害公営住宅への転居、住宅再建が本格化）】

- 災害公営住宅建設地区の自治会情報交換会を開催。（4月から）
- 土日、夜間訪問強化。（11月から）
⇒ **目的** 3ヶ月以上会えていない世帯、気になる世帯の状況把握の強化。
⇒ **効果** 夜間訪問することで、退去が進む仮設住宅の夜間帯の寂しさを再認識。
- 仮設住宅住民を対象とした住民集会の開催。（1月から）
⇒ **目的** 現在の仮設住宅での生活、今後の意向のヒアリング。

○ 災害公営住宅建設地区の自治会長訪問開始。(平成 26 年から)

過去の大震災の教訓から、公営住宅住民とその周辺地域とのつながりの必要性を感じて、住宅建設の 1 年前から開始。

⇒ **効果** 「災害公営住宅に関する情報がない」、「新しい住民を迎えるにあたり、どうすればよいかわからない」との不安をキャッチ。

○ 各地区で「自治会情報交換会」、「住民集会」を開催。(平成 27 年 4 月から)

情報交換会は、自治会役員の外、市の自治会連合会事務局が参加。ニーズや意向をヒアリング。

○ 各地区で災害公営住宅交流会を開催。

⇒ **目的** ①入居者同士のつながりづくり ②既存自治会と災害公営住宅とのつながりづくり



○ 「仮設住宅災害公営住宅自治会情報交換会(第 2 回)」を開催。(平成 28 年 2 月 13 日)

⇒ **目的** 住民主体で話し合う場、きっかけとする。

- ・ 災害公営住宅管理人、周辺地域の自治会長、仮設住宅自治会長 36 名が参加。
- ・ テーマ「ともに築き 暮らし続ける地域づくり～他県被災地の自治体の取組を通して～」
- ・ 石巻仮設住宅自治連合推進内海事務局長・大嶋理事、東松島市あおい地区まちづくり整備協議会小野会長の実践発表、グループワーク。
- ・ グループワーク及びアンケートで挙げられた意見を、後日、自治会長にフィードバック。



～ふるさとお茶っこ交流会(日帰り温泉交流会)～ ◆ 一関市 ◆

平成 28 年 2 月 17 日(水)、巖美溪温泉いつくし園にて、「ふるさとお茶っこ交流会(日帰り温泉交流会)」が開催され、42 名が参加しました。(避難元：陸前高田市 11 名、大船渡市 3 名、気仙沼市 26 名、仙台市 2 名)

当日は、一関市社協職員の外、一関市健康づくり課 4 名(看護師 2 名、保健師 2 名)、市民活動センター指導員 1 名、陸前高田市社協 5 名(生活支援相談員 3 名、思い出の品担当 2 名)、気仙沼市社協生活支援相談員 2 名、県復興局 2 名、いわて連携復興センター 1 名、石巻市福祉仮設住宅地域交流拠点あからいん 1 名が運営協力を行いました。



懇談時には、避難元の社協職員等に地元の話聞く姿、県復興局の職員に相談する姿が見られました。



「日帰り温泉交流会」は、平成 24 年度から毎年開催されており、普段、お茶っこ交流会には参加しない方も参加しています。

終了後、協カスタッフも参加した振り返りミーティングでは、一関市社協の菅原課長から、故郷に帰った後でも、ここ(一関市)が居場所となるようなつながり、笑顔をつくるきっかけづくりの交流会を今後も開催したいとの言葉がありました。